

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 450

| | | | | | |
|------|--------------|-----|--------------------|------|-------|
| 所管部局 | 農林商工部 | 所管課 | 農林整備課 | 担当者名 | 谷 裕之 |
| 事業名 | 野生鳥獣被害総合対策事業 | | | 事業分類 | ソフト事業 |
| 細事業名 | 有害鳥獣捕獲対策事業 | | | 政策体系 | 235 |
| 会計 | 一般会計 | 科目 | 6.農林 - 2.林業 - 2.林業 | | |

1. 事業の概要

有害鳥獣直接捕獲対策として、市猟友会に捕獲を委託する
捕獲班員の確保のため、狩猟免許資格取得に係る経費の一部を助成する

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

有害鳥獣の個体数（生息数）の調整（制限）する対策として、市猟友会に捕獲委託し、農林水産物等の被害の蔓延を最小限に食い止めるために実施するものである

②事業を実施する必要性

農林作物等の被害は甚大であり、被害額もさることながら生産者の精神的ダメージ計り知れないものがあり、生産意欲の低迷に拍車をかけるものである。このような極めて厳しい現状がある中で、本事業は必要不可欠である。

3. 事業費の推移

| | 単位 | 平18決算 | 平19決算 | 平20決算 | 平21決算 | 平22予算 | 平23計画 | 平24計画 |
|-------------------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 決算額または計画額 | 千円 | 32,740 | 36,009 | 41,184 | 37,192 | 29,734 | 39,273 | 39,273 |
| うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 | 使用料・手数料等 | 千円 | 0 | 120 | 131 | 0 | 0 | 0 |
| | 国・府支出金 | 千円 | 2,610 | 3,225 | 6,016 | 5,347 | 4,500 | 6,016 |
| | 地方債 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 千円 | 30,130 | 32,664 | 35,037 | 31,845 | 25,234 | 33,257 |
| 職員等の従事人員 | 人/年 | — | — | 0.90 | 1.05 | | | |
| 人件費 | 千円 | — | — | 5,061 | 5,704 | | | |
| 事業費総額 | 千円 | — | — | 46,245 | 42,896 | | | |

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

| | | |
|--------------|-------------|--------|
| 被害対策協議会の開催 | 84,500円 | (報酬) |
| 市猟友会への捕獲委託 | 5,208,000円 | (委託料) |
| 市猟友会への広域捕獲委託 | 896,400円 | (委託料) |
| 有害鳥獣捕獲報奨 | 29,833,000円 | (報償費) |
| 小動物用捕獲檻他 | 618,000円 | (消耗品費) |
| 斃死畜焼却処理 | 132,000円 | (手数料) |
| 狩猟免許取得助成 | 420,100円 | (補助金) |

5. 事業結果の概要

| | |
|---------------------|--------------|
| 被害対策協議会の開催 | |
| 市猟友会への捕獲委託 | 捕獲 羽 1,321頭他 |
| 市猟友会への広域捕獲委託 | 捕獲 羽 38頭 |
| 有害鳥獣捕獲報奨 | |
| 小動物用捕獲檻購入(アライグマ捕獲用) | |
| 斃死畜焼却処理 | |
| 狩猟免許取得助成 | 13名 |

6. 活動の詳細

| 活 動 内 容 | 活動日又は時期 | 活 動 結 果 等 |
|--|-----------|--|
| (1) 直接的な対策 | | |
| <p>・有害鳥獣の個体数（生息数）を調整（制限）するため、市猟友会と委託契約し、捕獲班員に捕獲許可証を交付し、捕獲業務に従事いただく。捕獲実績 シカ 1,321頭 イノシシ 141頭 サル 10頭・同上捕獲に対する報奨として報償金を交付する。・外来生物（アライグマ）の駆除のため、捕獲檻等を購入する。・狩猟免許取得に係る該当者に補助金を交付した。</p> <p>銃器 2名 わな猟 12名 計 14名</p> | 21.4～22.3 | <p>・農林水産物等の被害の蔓延を最小限に食い止め、生産者の精神的ダメージを和らげ、生産意欲の低迷に一役を買った。</p> <p>・捕獲従事者に対する支援ができた。・捕獲班員を確保する手立てができた。</p> |

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

広域捕獲の実施により市域境界の有害鳥獣駆除捕獲を行った。今後も引き続き被害の蔓延防止、生産者の生産意欲低迷に歯止めかけるため、引き続き事業実施が必要である。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
市猟友会との捕獲対策の検討。
- ②当該事業のアピール事項
地域住民への捕獲対策への協力。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
被害の蔓延防止、生産者の生産意欲の低迷に歯止めをかけるため、引き続き事業実施が必要である。